

検査について学ぶだけでなく
あらゆる疾患について勉強中です

臨床検査技師になることを目指して、保健衛生学科検査技術専攻に入学した南部真由さん。現在所属する先端分析検査学研究室では、臨床に近い実習を行うことができる。ときには学生自ら被験者となり、尿検査や血液検査をする。

「座学で一生懸命勉強してもなかなか覚えられなかったことでも、実習で体験することできちんと理解できます。例えば、ビタミンC摂取後に尿検査をすると偽陰性になる仕組みも、この実習で理解しました」

将来は病院で検査技師として働き、超音波検査を手がけたいという希望があるが、卒業後は大学院に進んで研究を続ける。

Mayu Nambu

南部真由さん

保健衛生学科検査技術学専攻 4年

「今の研究テーマは、炎症時に産生されるSAA(血清アミロイドA)というタンパク質です。SAAは動脈硬化を予防するHDLコレステロールの構造や機能を変化させる可能性があります。実際の患者さんの検体を使った研究でもSAAとHDLの関係を示すデータが出ていることから、初めて学会発表をすることになりました」

大学入学時には、以前から興味を持っていたダンス部に入った。ダンス経験はほとんどなかったが、4年生からは部長を務めている。

「私がダンスをやっている

と知ると、『そういうタイプには見えない』と言われる。でも、中学と高校では演劇部だったので人前に立つことは苦手ではないですし、体を動かすことが大好き。気分転換にもなるダンスは、本当に楽しいです」

定例のダンス部としての活動は年1回の御茶ノ水祭がメインだが、医療系大学が集まって結成されたダンスサークル(UDM)でも活動している。

「毎年の夏公演は400人の学生が参加するほど大規模なサークルです。他大学出身の検査技師の先輩からさまざまなお話を伺うこともあり、サークルには大学ダンス部と違う楽しみがあります」

大学院でもいろいろなことにチャレンジしたいと、前向きな姿勢を見せる。

「研究面では、国際学会にも参加してみたいです。国家試験に合格すると大学の附属病院で検査技師の業務に携われるので、大学院生のうちに臨床現場での経験も積みたいと考えています」



ダンス公演での南部さん。

